



TITLE:

上部尿石症に対するUC-2の試用

AUTHOR(S):

稲田, 務; 蛭多, 量令; 北山, 太一; 小松, 洋輔

CITATION:

稲田, 務 ...[et al]. 上部尿石症に対するUC-2の試用. 泌尿器科紀要 1966, 12(11): 1313-1316

ISSUE DATE:

1966-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113050>

RIGHT:

上部尿石症に対する UC-2 の試用

京都大学医学部泌尿器科学教室（主任：稲田 務教授）

教	授	稲	田	務
講	師	蛭	多	量
講	師	北	山	太
大学院学生		小	松	洋
				輔

CLINICAL EVALUATION OF UC-2 IN UROLITHIASIS

Tsutomu INADA, Kazuyoshi EBISUTA, Taichi KITAYAMA and Yosuke KOMATSU

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director : Prof. T. Inada, M. D.)*

UC-2 (an extract of *Quercus stenophylla* Makino) was used to facilitate the passage of the ureteral calculi. In our series of 15 cases, 40.0 per cent of the stones passed spontaneously, and another 13.3 per cent of the stones showed some degree of descent.

UC-2 was also used to dissolve the renal calculi. In our series of 6 cases, however, no changes were observed.

No side effects were encountered.

緒 言

上部尿石症の保存的療法としては、結石による痙攣発作に対する加療と結石の自然排出促進のための加療とがある。前者の目的には、種々の痙攣鎮静剤や鎮痛剤が使用され、可成り有効であることが認められている。しかし後者の結石自然排出促進に対しては、従来種々の薬剤の投与が試みられ、その効果が検討されて来たが、未だにその目的を確実にかなえてくれるものとして公認された薬剤はないようである。

今回、化研生薬株式会社より上部尿石症の保存的療法剤 UC-2 の提供をうけ、京大泌尿器科外来に受診した上部尿石症患者に使用したので、その臨床成績を報告する。

薬 剤

UC-2 は、ウラジログン(*Quercus stenophylla* Makino) の乾燥葉および小枝を水浸抽出したエキストラクトを主成分とし、1錠中に 200mg を含有する。幸田 (1959) によると、このエキストラクトは磷酸石灰

結石の灌流溶解実験で溶解効果を示し、またラット膀胱内結石形成実験において、その結石形成抑制効果を示したという。なおウラジログンは、ブナ科に属する常緑喬木であり、四国、九州地方に産し、徳島県下で古くからその葉および小枝などの温浸剤が民間薬として胆石や尿石症に用いられ、有効であると言伝えられているという。

臨 床 成 績

1. 対象症例

京大泌尿器科外来に受診した尿管結石症患者15例および腎結石症患者6例である。

2. 投与方法および用量

UC-2 1日9錠を3回に分け食後に内服せしめた。投与延日数は最短7日間で最長56日間である。

3. 使用成績

1) 尿管結石症 (表1)

症例は計15例で、各症例の年齢、性、患側、結石の位置、結石の大きさ(レ線写真上における測定)、UC-2投与期間、経過、副作用の有無は表1に示す通りである。

15例中結石の排出をみたもの6例(40%)、結石の下降をみたもの2例(13%)、結石の位置不変7例で

あった。

副作用と思われる反応は全例に認めなかった。

以下、結石の排出あるいは下降をみた8症例について詳述する。

症例1 波多野 某, 37才。

初診：昭和40年9月9日。

既往歴：6年前腎結石あり自然排出す。

現病歴：2週前、右側腹部に疝痛様疼痛を来し、その後、時々同様の発作がある。

検査所見：IVPで右尿管部第3～第4腰椎の高さに1.0×0.6cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からUC-2投与を開始す。6月24日、IVPで結石の位置不変。10月18日、IVPで結石の位置不変。10月29日、右側腹部に疝痛発作あり。11月15日、単純撮影にて結石は骨盤部に下降していた。12月1日、結石排出す。結石排出は最初の疝痛発作の日から数えて98日目、UC-2投与開始の日から数えて84日目におこった。UC-2延投与日数は60日間であった。

症例2 中野 某, 20才。

初診：昭和40年10月28日。

現病歴：昭和40年7月頃から時々肉眼的血尿あり、昨日右側腹部に鈍痛があった。

検査所見：IVPで右尿管部第2腰椎の高さに1.0×0.3cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からUC-2投与を開始す。11月4日、単純撮影にて結石は第3腰椎の高さに下降していた。12月10日、右腰部に疝痛発作あり。12月23日の単純撮影にて結石陰影は消失していた。結石の排出は自覚しなかった。UC-2延投与日数は60日間であった。

症例3 馬淵 某, 41才。

初診：昭和40年7月21日。

現病歴：2日前、左側腹部に疝痛発作あり、某医により血尿あるを指摘さる。

検査所見：IVPで左尿管部第2～第3腰椎の高さに0.6×0.3cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からロワチンおよびブスコパンの内服を開始す。8月11日、単純撮影で結石の位置不変。9月16日、IVPにて結石は骨盤部に下降していた。当日から前記2種薬剤の内服を中止し、UC-2投与を開始す。9月22日、結石排出す。10月1日、単純撮影にて結石陰影は消失していた。結石排出はUC-2投与開始の日から数えて7日目におこった。UC-2延投与日数は7日間であった。

症例4 川上 某, 53才。

初診：昭和40年10月28日。

現病歴：3日前に右側腹部に疝痛発作あり、翌日も

同様の疝痛発作を来した。

検査所見：IVPで右骨盤部に0.6×0.3cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からUC-2投与を開始す。11月11日、単純撮影にて結石はいくらか下降していた。その後2回右側腹部に疝痛発作あり。11月22日、単純撮影にて結石はさらに下降していた。12月6日、結石排出す。12月21日、IVPにて結石陰影は消失していた。結石排出は最初の疝痛発作の日から数えて43日目、UC-2投与開始の日から数えて40日目におこった。UC-2延投与日数は42日間であった。

症例5 川野 某, 45才。

初診：昭和40年9月7日。

現病歴：1カ月前から時々右下腹部に鈍痛あり。

検査所見：IVPで右尿管部第4腰椎の高さに0.5×0.3cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：9月18日からUC-2投与を開始す。10月18日、単純撮影にて結石は骨盤部に下降していた。11月18日、単純撮影にて結石は骨盤部に下降していた。11月18日、単純撮影にて結石陰影は消失していた。結石の排出は自覚しなかった。UC-2延投与日数は14日間であった。

症例6 湯浅 某, 26才。

初診：昭和40年8月7日。

現病歴：約1カ月前から右側腹部鈍痛あり、そのうち計4回にわたって当該部に疝痛発作があった。

検査所見：IVPで右骨盤部に0.5×0.3cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からロワチンおよびブスコパンの内服を開始す。8月23日、単純撮影にて結石の位置不変。その後も右側腹部鈍痛持続す。9月20日、IVPで結石の位置不変。当日から前記2種薬剤の内服を中止し、UC-2投与を開始す。10月26日、結石排出す。11月9日、IVPにて結石陰影は消失していた。結石排出は最初の疝痛発作の日から数えておよそ110日目、UC-2投与開始の日から数えて37日目におこった。UC-2延投与日数は21日間であった。

症例7 野村 某, 43才。

初診：昭和40年9月4日。

現病歴：昨日から右腰部に鈍痛あり。

検査所見：IVPで右骨盤部に0.7×0.4cm大の結石1コあるを認めた。

治療経過：当日からUC-2投与を開始す。10月9日、単純撮影にて結石は約4cm下降していた。その後患者は来院しない。UC-2延投与日数は21日間であった。

表1 尿管結石症に対する UC-2 使用成績

症例	年令	性	患側	結石の位置	結石の大きさ (cm)	投与期間 (延日数)	経 過	副作用
1	37	♂	右	L ₃ ～L ₄	1.0×0.6	60日	結石排出(84日後)*	(-)
2	20	♂	右	L ₂	1.0×0.3	49日	結石排出(約2ヵ月後のレ線写真で結石なし)	(-)
3	41	♂	左	骨盤部	0.6×0.3	7日	結石排出(6日後)	(-)
4	53	♂	右	骨盤部	0.6×0.3	42日	結石排出(39日後)	(-)
5	45	♂	右	L ₄	0.5×0.3	14日	結石排出(約2ヵ月後のレ線写真で結石なし)	(-)
6	26	♀	右	骨盤部	0.5×0.3	21日	結石排出(36日後)	(-)
7	43	♂	右	骨盤部	0.7×0.4	21日	結石下降(約1ヵ月後のレ線写真で約4cm下降)	(-)
8	52	♀	左	L ₂	0.6×0.2	35日	結石下降(約20日後のレ線写真で骨盤部に下降)	(-)
9	50	♂	右	骨盤部	2.0×2.0	28日	不変(6週後)	(-)
10	22	♂	左	骨盤部	1.0×0.8	28日	不変(3ヵ月後)	(-)
11	63	♀	左	L ₃	1.0×0.6	56日	不変(7ヵ月後)	(-)
12	39	♂	左	骨盤部	0.6×0.6	28日	不変(4ヵ月後)	(-)
13	30	♂	左	骨盤部	0.5×0.5	21日	不変(3ヵ月後)	(-)
14	31	♀	左	L ₃ ～L ₄	0.5×0.4	28日	不変(1ヵ月後)	(-)
15	53	♂	右	L ₃	0.5×0.4	28日	不変(1ヵ月後)	(-)

*:()内は UC 投与後の期間を示す

表2 腎結石症に対する UC-2 使用成績

症例	年令	性	患側	結石の位置	結石の大きさ (cm)	投与期間 (延日数)	経 過	副作用
1	22	♀	左	腎盂・腎杯	樹枝状	56日	不変(4ヵ月後)*	(-)
2	48	♂	左	腎盂・腎杯	樹枝状	28日	不変(4ヵ月後)	(-)
3	21	♀	左	腎盂	1.0×0.8	42日	不変(6ヵ月後)	(-)
4	34	♀	右	腎杯	1.0×0.5	28日	不変(1ヵ月後)	(-)
5	20	♀	右	腎盂	0.5×0.4	14日	不変(2ヵ月後)	(-)
6	40	♂	左	腎杯	0.3×0.2	28日	不変(1ヵ月後)	(-)

*:()は UC-2 投与後の期間を示す。

症例8 中川 某, 36才。

初診：昭和40年9月13日。

現病歴：1週前左側腹部に疝痛発作あり。

検査所見：IVP で左尿管部第2腰椎の高さに 0.6×0.2cm 大の結石1コあるを認めた。

治療経過：9月16日から UC-2 投与を開始す。10月4日，左側腹部に疝痛発作あり。10月5日，単純撮影にて結石は骨盤部に下降していた。患者はその後來院しない。UC-2 延投与日数は35日間となっている。

2) 腎結石症(表2)

症例は計6例で各症例の年令，性，患側，結石の位置，結石の性状乃至大きさ(レ線写真上における測定)，UC-2 投与期間，経過，副作用の有無は表2に示す通りである。

6例共レ線写真上結石の位置および大きさに変化を認めなかった。

副作用と思われる反応は全例に認めなかった。

総 括

徳島県下で古くから胆石，尿石症の民間薬として有効であると云伝えられているウラジログンのエキストラクトを主成分とした UC-2 を，尿管結石症15例に対しその自然排出を促進する目的で使用したが，その結果排出をみたもの6例(40%)，下降をみたもの2例(13%)，不変のもの7例であった。この不変7例のうち2例は結石の大きさがそれぞれ 2.0×2.0cm，1.0×0.8cm と可成り大きく，常識的に自然排出が期待しえないと考えられる症例であった。結局6例に結石の排出を認めたが，その排出が本剤によるか否かを断定することは出来ない。

腎結石症6例に対しても UC-2 を使用したが，これは腎結石溶解作用を期待したものであ

る。しかし、観察期間内ではレ線上、結石の大きさおよび形状に変化を来したものはなかった。

UC-2投与による副作用は全く認めなかった。なお今後もひきつづき経過観察の予定である。

結 語

1) 尿管結石症15例に UC-2 を使用し結石の排出例6例(40%)、結石の下降例2例(13%)、不変例7例の結果をえた。

2) 腎結石症6例に UC-2 を使用したが全例とも不変であった。

3) 副作用と思われる反応は全例に認めなかった。

文 献

- 1) 幸田嘉文：うらじろがし(*Quercus stenophylla* Makino)成分の尿路結石溶解乃至形成抑制作用にかんする実験的研究。四国医学雑誌, 16: 287~300, 1960.
- 2) Higgins, C. C. & Straffon, R. A.: Campbell's Urology, Vol. 1, p. 681~774, W. B. Saunder Co., Philadelphia and London, 1963.
- 3) 小国正夫：うらじろがし(*Quercus stenophylla* Makino)の薬理学的研究。四国医学雑誌, 14: 602~607, 1959.

(1966年9月2日特別掲載受付)